第１回大野市生涯学習推進計画策委員会　議事録

日時：令和３年６月２５日（金）１９時～２１時
場所：学びの里「めいりん」２階　洋室大

１　開会

２　委嘱状交付
教育長から全１１名に委嘱状を交付

３　市民憲章・教育理念の唱和

４　教育長あいさつ
・大野市は、この４月から第六次総合計画をスタートさせた。大きな括りの中のひとつに、「こども」という括りがあり、未就学の子たち、そして小中高校と１８歳までしっかりつないでいくという改革を実現することができた。
・今までの子育てすくすく応援パッケージは福祉で実施していたが、今年から教育委員会のこども支援課として、教育委員会で一括して行うことになった。
・それに加えて今年度は、大野市生涯学習推進計画を策定することとした。人生１００年時代を迎えて、市民一人一人が常に学び続け、そして活躍できる環境をさらに充実していきたいと思っている。子育て、教育、学び、これらを一貫して支援する計画にしたいのでご協力いただきたい。

５　委員・事務局の紹介

６　委員長、副委員長の選任
委員長　　福井大学国際地域学部　准教授　生駒俊英氏
副委員長　大野市社会教育委員の会議　委員長　佐々木正祐氏

７　委員長あいさつ
・個人的に大野市が大好きであり、大野城、イトヨの里に何度も行っている。本日は、荒島の郷にも立ち寄ってきた。自分の好きなまちにこういった形で関わるというのは光栄であり、また、生涯学習推進計画という新しい試みに携われるということにワクワクしている。
・大野市の大野市民による大野市民のための計画が策定できるように、委員の皆様と一緒に努めていきたい。

８　議事
（１）報告事項
〇生涯学習推進計画策定に至った経緯について
（説明概要）

・市の最上位計画である第六次大野市総合計画は、六つの分野で基本目標を設定しており、こども分野では「子どもたちの故郷を愛する心を育むまち」、地域づくり分野では「生涯にわたって主体的に学び、地域づくりに積極的に取り組むまち」を目指す姿としている。教育に関する大綱では「地域を担う人づくりや生涯学習の推進」を掲げている。また、結の故郷ふるさと教育推進計画が今年度で終了することから、これまでの課題と成果を検討し、人生１００年時代における生涯学習の推進と、市長部局に移管した公民館との生涯学習の継続が必要と考え、生涯学習推進計画を策定することとした。
・生涯学習推進計画は、今のふるさと教育推進計画の取り組みの他、現在実施している生涯学習の取り組みを加え、今後必要な生涯学習の取り組みを検討して、市民全体を対象にした生涯学習の計画にしたいと考えて事務局案を示した。

〇本市の生涯学習の現状と課題について
（説明概要）
・結の故郷ふるさと教育推進計画での事業実施状況、生涯学習の事業実施状況を説明
・本市の生涯学習の課題として次の５点を提示
①世代に適した学びの場、常に市民が興味を持つ講座をどう提供するか。
②市民がイキイキして元気に長生きできるような生涯学習活動をどう進めるか。
③ニーズに即した活動を住民主体で立ち上げられるようにするにはどう支援するか。
④いかに地域を担う人材を発掘・育成するか。
⑤地域の絆が衰退する中でいかに家族や地域との世代間交流を図っていくか。
・第六次総合計画の施策展開を踏まえて、これら課題に対して事業を実施していくかを検討することになる。

（質疑応答）
委　　員：目標は何になるのか。第六次総合計画の基本目標に掲げてあるから生涯学習推進計画を策定しましょうという流れがよく分からない。今、これだけ事業を実施しているのであればこれ以上求めるのは必要ないのではないか。
委 員 長：確かにいろいろなイベント・企画が開催されていて、他に考えられないぐらいであるが、どれが必要でどれが必要でないかという検討も必要になる。参加されている方や実施されている方からご意見を伺えば、それは分かってくると思われる。
委　　員：最終的にどういうものにするのか。これから話をしていく中で、こういうことをやっていければ良いということが探れたらいいということか。
委　　員：地域の絆が衰退していて、いかに世代間交流を図っていくかという課題が示されているが、今どこまでダメになっているのか。こういう状況が見受けられるからこういうふうに戻していこうかとか、今までできていたのになぜできないのか、ではこういうふうにやっていければもっと良くなるよねという把握もできると思うが、その辺の現状把握とか、今はこうだがこういう目標値で設定したというデータがあれば提示いただけないか。
事 務 局：今のところそのようなデータを作っていない。これまでの第六次総合計画などの計画の中身から抽出している課題であり、ある程度のデータは第２回委員会に向けて準備したい。

委　　員：今は昔と比べて漠然としてこういう印象があるから、いろいろな方の知恵を拝借して今のうちに手を打っていい形にできないかということをこの場で考えてほしいということでよいか。

事 務 局：よい。

委　　員：越前市は、打ち刃物がすごい脚光を浴びている。大野市に果たしてそういったものがあるのかと思う。踊りや陶芸、漆器など、越前市のようなものが生き残っているのだろうかと寂しく思ってきた。今こういった計画を検討することをきっかけにして、息の長い活動を今から先、続けていくことを呼びかけ、いつしか大野市が続けてきた伝統的なものが脚光を浴びるようになり、大野市民の文化づくりに取り組む姿勢を目指す機会になればと受け止めている。いろいろな形で個人的に努力している方はいるが、あくまでも個人レベルで、あるいは小グループで終わっており、大野市全体を抱き込むようなものには至っていない。前に越前大野城築城４３０年祭を打ち出して城下町の歩みについてアピールする機会があったが、そういったところをもっとアピールして小京都大野として様々な評価を得られるようなまちづくりを継続的にしていないのではないかということを心寂しく受け止めている。いつしか「越前何々」のような大野市の伝統が形作られていくことを願いたいと思ってここに参画している。

事 務 局：各公民館でいろいろと講座を企画している。その中で計画を策定していくのであれば、例えばイメージとして何歳から何歳ぐらいはこんな感じでという案を出してもらえると、この年代層はこの活動がちょっと弱いとか、この公民館は学習の機会をもっと作らなければいけないというように参考として活用できる。そのような計画ができると、公民館に足りない分野を取り入れていけると思う。

委 員 長：整理の仕方、見せ方になるが、何ができているのかということを整理してみると、足りないものが見えてくるかもしれない。

委　　員：事務局の説明では、非常に多くの行事をやっていて、自分は大野地区の公民館報を見てこういうことをやっているのだと分かるが、もっと多くのことをやっているので、こういったことをどうすれば市民全体に広げられるのかと思う。

委　　員：自分は学びの里「めいりん」を利用して公民館講座を開いている。なぜ私的にやらないのかというと、私的に教室を行うと気になる子と関われなくなるため公民館講座を利用している。行政の講座としてやっているといろいろな繋がりができて、ちょっとこのお母さん気になるなとかこのお子さん気になるなと思った時には、健康長寿課や地域包括センターに繋げることができる。公民館を通してつないでもらって、保健師に家庭訪問に行ってもらっている。今回、委員として呼ばれて、これまで個人的にやっていたものを委員の皆さんで大きくしていける嬉しさがある。どう市民に働きかけるかというよりは、一人でコツコツやってきたことを皆さんと繋いで連携して市として大きくやっていけたらと思っている。「この委員会はこういう会です。こういう感じで一年間よろしくお願いします。」と言われるとつまらないので、委員の皆さんの思いを形作っていければと思っている。

委　　員：これまで大野市が生涯学習を続けてきて良かったことは何かあるか。課題だけではなく良かったことがあるはず。というのも自分達がまちづくり会社をやっていて、人口減少の課題を解決しようとしても正直できない。自分達が楽しく活動を続けてきて、１年続けてき

たことでやっと知り合いの周りの人たちが注目してきて新しい場が生まれて、実際に来週ぐらいに鯖江から女性が来て大野に住みだすことになった。そういうことが活動を続けることで生まれる。課題を何か解決しようとしてもなかなかできない。何かいいことがあるのであればそれを伸ばした方がいいのではないかと思う。

事 務 局：生涯学習を推進してきて良かったことは、自分の生きがいを見つけることになることだと思う。生きがいを見つければ自分の健康寿命が延びることに繋がる。先ほど人材活用登録者として活躍されている９０歳以上の方を紹介したが、あの人のように元気に長生きができる。生涯学習を続けている方はイキイキとして元気に活動していらっしゃると考えている。

委　　員：今まではふるさと教育推進計画というものがあって、それを今度は生涯学習推進計画にしようということだが、私たちは生涯学習の具体的な事例を挙げることになるのか。それとも生涯学習推進計画ができたら、それを各部署が部署ごとにいろいろな行事を組んでいくのか。

事 務 局：上位計画としては第六次総合計画などがあるが、その中身は具体的ではない内容となっており、この計画では、ある程度具体的なことを記載していくことになる。

委　　員：１歳から１００歳までまかなえるようなそんな計画をここで決めていくのか。

事 務 局：年代ごとにこういった事業ができればと考えていただければと思う。今まで続けてきて、これからも進めていこうという事業であれば詳しく載せてもいいと思う。今後、このような事業がしたいというものがあれば、それに繋がるような書き方ができればと思う。

委　　員：そういう事業案を出すということか。

事 務 局：事業も検討していただいて、そこにつなげるにはこういう文章で書きましょうかということを考えていただければと思う。

委　　員：平成２８年に策定したふるさと教育推進計画の前には、何か計画はあったのか。

事 務 局：その前には計画はなかった。この時も第五次総合計画を基に人と人をつなげていき、ふるさと教育は大事ということでふるさと教育推進計画を策定している。

委　　員：今、若い方が生涯学習的な地域の活動になかなか参加できていない。やはり若い人は、公民館が遠い存在でもあるし、自分から進んで何かに参加しようということがない。特に子育てしているお父さんお母さんたちにとっては、こういった子育てパッケージを与えられないと参加しないのかなと思う。

委 員 長：いかに若い世代を巻き込んでいくかが大事になる。従来は学校がやっているところもあったが、逆に言うと、生きがいという話が先ほどあったように、そもそもそこに返ってこない。

委　　員：説明にあった出前講座など、こんないいことがあるのかと知ったが、もし知っていれば利用できたのにと思う事業がいっぱいある。

委　　員：公民館の館報は回覧板に挟まれてくるが、おじいちゃんおばあちゃんは読んでも若い人が読まずに次に回されてしまう。※公民館報は地域内全戸配布

委　　員：市報などは告知効果がゼロに近い。

委 員 長：広報している人はかなり広報しているが、全然伝わっていない。

事 務 局：内閣府の調査で生涯学習に関する世論調査というものがある。今回の計画は、市民アンケ

ートを取らずに策定することで進めているが、ニーズ把握は必要なので、参考にするのが内閣府の調査である。内閣府の調査項目のひとつ、地域社会の活動への参加を促す方策というところで、多くの人が地域や社会への活動に参加するようにするためにはどのようなことが必要だと思いますかという設問に対して、一番回答が多かったのが、地域や社会の活動に関する情報提供が必要というものである。おそらく情報が皆さんに入らないから参加しない状況になっている。他には、地域や社会に関する講習会の開催など活動参加に繋がるようなきっかけ作り、活動の成果が社会的に評価されること、次が交通費などの経費の支給という回答になっている。今皆さんに集まっていただいて、生涯学習の説明をしたが、その内容については初めて聞くことが多かったかと思う。それを市民の方にお示しするだけでも、参加者が増え、イキイキと暮らしていただけるような生涯学習に繋がるのではないかと思う。

（２）協議事項

〇計画策定スケジュールについて

（説明概要）

・１年間で策定するスケジュールとしている。第２回を７月末から８月の間で考えており、ここまでである程度の骨子案・計画案を作ってお示ししたいと考えている。９月には第３回、１０月末から１１月までの間で第４回とし、ここで、大体計画をでき上がりの状態として、議員全員協議会、教育委員会への説明をして、１２月にパブリックコメント、１月に第５回の会議を予定している。

〇生涯学習推進計画骨子案について

（説明概要）

・事務局案として、他市町の計画や市の他の計画の流れを参考に作成した。今は目次がないが、大きく「計画の策定にあたって」、「生涯学習の現状と課題」、「計画の基本的な考え方」を示している。報告事項でひとづくりやつながりづくりなどの体系を説明したが、この骨子にはそこまでは記載していない。今後、章立てて作っていくことになる。

・生涯学習の策定にあたってでは、生涯学習とは何か、国の動向などの決まりきったものとなっているが、次に今回の計画の目的、計画の位置付け、計画の期間として、ここまでが第１章になるかと思われる。

・市の生涯学習の現状と課題では、市の概況と市の生涯学習の取組状況、市の生涯学習の課題を記載している。今回は、アンケートを取らずに進めているので、内閣府の生涯学習に関する世論調査やこれまで市が進めてきた講座や講演会で出席者から取ったアンケートを整理して第２回にはお示しする。

・計画の基本的な考え方では、第六次総合計画の基本目標の内、生涯学習が特に関わるこども分野と地域づくり分野の目指す姿を基に、今回の計画の基本目標を決めたいと考えている。

・今回はここまで事務局案として示したが、今後、肉付けや修正をしていくとともに、このページ以降が施策の展開になるので、それも検討していっていただくことになる。第２回には、目次を付けて施策展開の記載例も記載したものをたたき台にしてお示しする。

（質疑応答）

委 員 長：現状と課題が重要なところであって、この課題に対してどう施策展開していくかが大事になる。先ほど各委員から課題に対して意見が出たが、他に考えられるものをご提案いただきたい。第２回にはこの課題を踏まえて事務局から施策体系や基本目標の提案が出てくると思うが、現時点で思うことがあればお願いしたい。

委　　員：生涯学習という言葉を変えられないか。この言葉自体が拒否反応を起こす。何か面白いことをしようということで、自分が委員として呼ばれたと思っている。そこは国や他の市町にならってと言わずに、大野をどうするかということで集められたメンバーだと思うので、それは気にしなくていいのではないかと思う。

委 員 長：計画のタイトルは変えることは可能なのか。

事 務 局：この委員会で考えたものとして、そのタイトルが市民に伝わるものであれば、可能ではないかと思われる。

委　　員：パブリックコメントをしても読まないと思われるので、そこから変えていくと面白いものになるのではないかと思っている。

委　　員：今までパブリックコメントを取ってきて、一番多かった件数は何の計画でどれぐらいあったのか。

事 務 局：把握していない。

委　　員：小中学校の再編のパブリックコメントでも１，０００件もいかないと思う。この委員会で廃止が決まったものは廃止させますというような柔軟な発想を採用してもらわないと何も変わらない。

事 務 局：いろいろなご意見をいただきたい。

委　　員：仕事で他の市町の公民館にも行っているが、どこの市町の公民館に行っても同じようなことを言っているので、面白くないとか違いが分からないということになる。どこに行っても同じことの繰り返し、職員が変わっても同じであり、特色はないと感じている。斬新な名前だと新しいのではないか。例えば、パブリックコメントと言われても高齢者は分かりますか。みんなが分かるような、特色があるような、せっかくの会議なので面白いことができたらと思う。

委 員 長：あくまでもこの計画は市民に広めるものであるのか。

事 務 局：そのとおり。

委 員 長：前段階の打合せの時にも、自分の中では全市民を対象にするのであれば、小学生や幼稚園を含めて人生１００年時代でいろいろな層があるので、どう計画を見せるかというのを考える必要がある。

委　　員：Ａ４サイズぐらいで起承転結にしてパッと見せるほうがいいと思う。この冊子を見てどれだけ最初から最後まで見てくれるのかということ。

委 員 長：ひとつは概要版のような形で作ることもあり得るのではないか。

事 務 局：それもあり得る。今のふるさと教育推進計画でも概要版があり、Ａ３サイズの両面刷りとなっているので、市民の皆様に手に取ってもらえるようにする。また、本編の方も今より見やすいもの、手に取りやすいものにするということを考えていければと思う。

委　　員：骨子の現状分析で引用されているのがいろいろな施設の利用状況のみとなっており、中身が薄いと感じる。この現状から課題を掘り起こして、その解決に向けてこういう計画を立てましたよというアピールができるのかどうかという心もとない部分がある。アンケートとなると期間が短い中で分析にも時間を必要とするので難しいが、ここをどうクリアしていくかも課題かと思う。これが無かったら意味をなさない。こうだからこういう課題を設定して、これを解消するためにこれをやりましょうという形にもっていかないとと思う。

委 員 長：現実的にアンケートは難しいので、皆様の思うところを出していただいて今回の計画につなげるというところが必要かと思う。飽きっぽい方とか文句言われる方というのをどう巻き込んでいくかというのは難しい課題である。

委　　員：やっぱり見てもらえないのはさみしいので、小さい子からお年寄りまで難しい言葉ではなくて見やすいことが大事なのではないかと思う。世代間交流について、いろいろな行事があっても、新型コロナウイルス感染症の拡大で参加が減っているのではなくて、地域の人口が減っているから参加が減っているので、今子どもがある程度大きくなって外に出てしまった後に、また大野に戻ってきたいと思えるような地域を作っていかなければならないと思う。大野から出るなとは言えないので、１回大野から出ていろいろな経験をして、また大野に戻りたいと思うようになるためには、小さい頃からいろいろな人と交流して、大野が住みやすい場所であるとか、いろいろな人に支えてもらえる場所だということを体験してもらうことが大事だと思う。子どもたちがお年寄りと一緒に体験するというのは本当に大事である。生涯学習で世代を超えた学習が必要ということで、いろいろな意見が出ていいものができたらと思う。

委　　員：他の地域の方に青年会に入っているか聞くと、最初は何人も入っていたのに、最近はうちの地区では青年会が無くなったというところが増えている。青年会として誘いに行くが、「入りません」、「福井に通っているのでそんな時間がありません」と言われる。親が入れということを強く言わなくなってもいる。コミュニティが分解していってしまって、若者だけで集まる時間も減ってきたということをいろいろな地区で感じているところがあるのではないか。

事 務 局：地区内にはコミュニティができていない集落もあるし、地区としての育成会の機能ができていない集落もある。若い人が入らないということがあるのと、今は地区の老人会にも入ってくれないということがある。６０歳以上で老人会に入れるが、今は６５歳でも若いので入りませんと言われるし、７０歳を越えたらもう体が利かないと言って入ってくれないこともある。社会の制度のこともあるが、昔は６０歳を過ぎたら地区のこともやろうといって頑張ってくれた人がたくさんいたのに、今は６０歳を超えても７０歳まで仕事をしているという社会になってしまって、新規会員の獲得に失敗してしまっている。若い世代でも高齢者の世代でも一緒に活動する仲間が増やせていない。一部の人が活動しているだけになっている。放っといても会員は全然増えないし、やり方とか考えて工夫していかないと、活動も続かない時代になった。

委　　員：人が減っていて会が存続できない中でどこまでコミュニティをやるべきなのかという観点を入れなければいけないと思っている。

委　　員：自分は大野地区の割と新しいまちに住んでいるが、青年会はもう消滅状態であり、自分は

壮年会に入っている。自分の青年会時代は神輿を担いで地区を回ってお金を集めてということをしていたが、それもできなくなり、壮年会を巻き込んでまた神輿を担がなければならないという思いでいる。いかに人材を発掘していくかというところで、壮年層から発掘するのではなくて、できる人、やりたい人からどんどんコミュニティに入っていけるようなそういったシステムが重要かなと思う。

委　　員：生涯でこういう学習をしていきましょう、こういう学習会がありますよというのを皆さんにお伝えするというのを主にするのか、今話が逸れて、皆と仲良くしなければならない、年代を越えて頑張っていかなければならないということを主にするのかで、進め方が変わってくる。今住んでいる地区は嫁いできた時には全然周りを知らなかったが、子どもが生まれたら愛育会というところに入るということから、公民館とはベッタリという中で、そこで全て子どものことも分かり、地区のことも分かった。自分の地区は皆が仲良しであり、婦人会もあれば青年会、壮年会もあり、子どもが生まれれば愛育会に必ず入ることになっているので、そっちに関してよりも、生涯学習でいろいろやっているのをあまり知らないことが問題だと思う。公民館は頑張ってくれているが、配布されたものが家庭内で止まってしまう。自分が出たいものを知ることができない。たまたま公民館の方が来て、今度ヨガがあるとかこんな事業があると聞いて、以前からそんなことがあるとは知らなかったという状態だった。今、みんなで世代間交流をするということを目的にしているのか、生涯自分が学習してきたものを皆さんに提供して、それを皆さんの生きがいとしてもらうために計画するのかどっちなのか。どっちもなのか。

事 務 局：どちらもである。

委 員 長：国の流れから行くと、広報というよりも生涯イキイキとすれば地域づくりも進んでいくというところが主だと思われる。ただ、課題は何かと探していくと、広報の問題が出てくる。

委　　員：広報の仕方で言うと、大野市のＬＩＮＥがあるが、あれは自分が欲しいところだけ見られるようになっている。こんなことが知りたいという、自分が求めているものだけを登録しておけば、次々と通知がくるようになっているので、ああいう風にできないかと思う。自分が求めている生涯学習の事業を年齢層によって登録しておけば、それに合った事業が通知されるようにできないか。自分が欲しい情報が入ってくる大野市のＬＩＮＥはすごいと思っている。お年寄りがガラケーしか持っていないと言われればそれで終わりだが、これからの時代そういったことも考えなければならない。

副委員長：少子高齢化で時代が変わってきている中で、今までの学習やふるさと教育で変えていかなければならないものは変えていく、逆に結の心に代表されるもので大野の根底にあるもののように変えてはいけないものは変えてはいけない。この二つのバランスを考えていかなければならないと感じている。

教 育 長：県内を見ても生涯学習の計画というものがない。今と同じように、それぞれの分野で講座をやっているだけでまとまっていないので、今事務局にもどういうふうな方向性になるのかと言ってもぼんやりしている。生涯学習って何なのかということを自分でしっかり考えたいと思う。今、答えがないようなところをお願いしているので、申し訳ないと思う。自分は、学校再編に３年関わっているが、ずっと市民の皆さんに説明し、意見交換してきており、それ自体が町の未来をみんなで考えていることとなる。この委員会も大野の未来を

考えたいという場のひとつと思っている。今回のこれも大野独自の計画なるのだろう。それがどういう形になるといいのかということを考えてもらいながら進めていきたい。事務局は少しでも形にしなければならないという思いからこのような固い内容になっているが、これをもっと変えていければと思うし、落としどころがどこかというのが難しいところではあるが、今から話し合っていけばそれも見えてくるのではないかと思っている。

委 員 長:第１回委員会ということで委員の皆様にはまずはざっくばらんにたくさんの意見をいただいた。その思いを踏まえて、事務局案も修正して第２回委員会で練っていくという形になる。変えていいことと変えてはいけないことがあるので、そこも議論を進めていければと思う。

（３）その他

事 務 局 : 次回開催の日程についてはまた相談させていただくが、７月下旬から８月上旬ということでお願いしたい。

９　閉会

副委員長 : 長時間にわたって活発な意見をいただき、楽しく勉強させていただいた。実りある第１回目の会議だったと思う。生涯学習の計画として、どれだけ良い計画を立てたとしてもそれが実行されなければ絵に描いた餅である。また実行されてもその成果が大野市民に還元されなければ意味をなさない。そう考えるとハードルは高いが、各委員の知恵とお力を拝借して、今後５年間の大野市の生涯学習を構想していくということでご協力願いたい。